黒伊佐錦
麦焼酎
大口酒造株式会社

暮らしプラス
西日本新聞 夕刊
発行所 西日本新聞社 〒810-8721 福岡市中央区天神1丁目4番1号 ©西日本新聞社2015年 ☎092(711)5555(代)
2015年（平成27年） 3月18日（水曜日）

玄海1号機 廃炉決定

九電、40年超運転断念

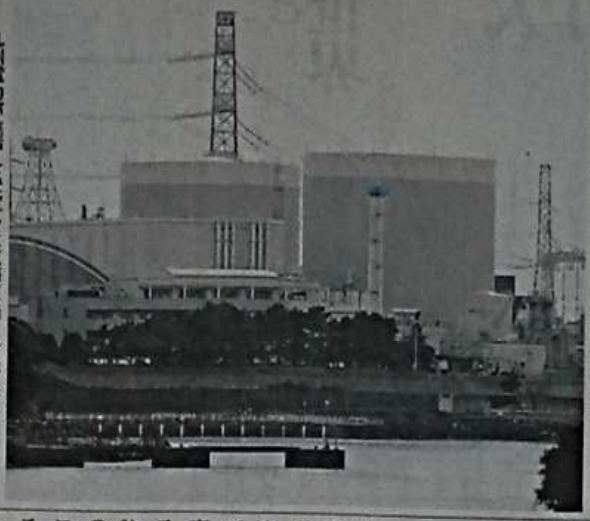
九州電力は18日午前、臨時取締役会を開き、10月に運転開始から40年を迎える玄海原発1号機（佐賀県玄海町、出力55万9千キロ）の廃炉を正式決定した。瓜生道明社長が同日午後に佐賀県庁と玄海町役場、唐津市役所を訪れ、各自長らに説明する。

九州で最も古い原発が今後、姿を消すことになる。国は東京電力福島第1原発事故後、原発の運転期間を原則40年とする制度を導入した。最大20年の運転延長が可能だが、原子力規制委員会の新規制基準に適合することなどが条件となった。玄海原発1号機も含め、2016年7月時点で運転40年を超える全国の原発7基は、運転延長を申請するか廃炉にするかの経営判断を迫られていた。

九電は、玄海原発1号機が再稼働すれば年数百億円規模の収支改善が見込めるが、新基準に適合させるにはケーブルの難燃化対応など追加の安全対策工事に多額の費用がかかるため、採算が取れないと判断。既に廃炉方針を固めていたが、経済産業省の廃炉会計に関する省令改正を待って最終判断した。

玄海1号機の出力は比較的小さく、供給面では廃炉の影響は限定的とみられる。ただ、管内の原発稼働停止に伴い、九電は財務的に厳しい状況が続いている。九電は再稼働に向けた準備が進む川内原発1、2号機（鹿児島県薩摩川内市、出力計178万キロ）と合わせ、玄海原発3、4号機（出力計236万キロ）の再稼働にも注力する構えだ。

老朽原発をめぐっては17日、関西電力が美浜原発1、2号機（福井県）を、日本原子力発電が敦賀原発1号機（同）をそれぞれ廃炉にすることを正式決定した。廃炉を決めた九電など4社は19日、経産省に報告する方向で調整している。（吉田修平、永松英一郎）



九州電力が廃炉を決定した玄海原発1号機（右）＝18日午前、佐賀県玄海町（撮影・中村太一）

老朽化「当然の流れ」
核のごみ処分「不安」

九州電力が玄海原発1号機の廃炉を決めた18日、原発の立地する地域ではさまざまな声が広がった。専門家から安全性を疑問視されていた老朽原発の廃炉を好意的に受け止める声が上がる一方、廃炉で生じる廃棄物の処分方法を含め、今後の国の原発政策が不透明なこともあり、不安を口にする人も多かった。地域経済への影響を懸念する声もあった。

玄海原発の再稼働反対を訴えてきた佐賀県玄海町有浦下の農業、青木一さん(77)は「1号機は老朽化が著しく特に危険。廃炉を歓迎したい」と九電の判断を評価した。ただ、放射性廃棄物の行き先は現時点では未定で「危険でないとは言い切れない。九電は原発周辺の農地取得の計画を進めているが、ここを保管場所に転用することがあれば、町民にとって新たな不安になる」と話した。

原発作業員が宿泊者の半分を占める旅館を同県唐津市で営む川口照幸さん(71)は「廃炉に伴ってどれだけ作業員が減るのか見通しが立たない」と今後の経営に気をもみつつ「原発に頼ってばかりでなく、外国人観光客の受け入れなど目線を広げなければならない」と前向きに受け止めた。

市民団体「戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会」の代表、工藤逸男さん(61)は「九電は今回の廃炉決定を、川内原発の再稼働や玄海原発の新増設を進めるきっかけにするのではないか。核のごみの扱いが決まっていない中で、原発を推進して良いのか」と疑問を呈した。

「玄海の廃炉は採算が取れないからで、当然の流れだ」。川内原発の再稼働反対運動をしている鹿児島県いちき串木野市の高木章次さん(63)も冷静に受け止めた。

18日、原子力規制委員会は川内原発の再稼働に必要な工事計画を認可した。「再稼働に一歩近づいたが、避難計画の欠陥を指摘し続けて、あきらめずに反対を言い続けたい」と力を込め、玄海に続き川内も廃炉となるよう期待を寄せた。

一方、薩摩川内市で民宿を営む御幸博文さん(62)は、収入の柱である原発作業員の利用が半年ほど途絶えて苦しい経営を強いられている。「地元が同意すればすぐに動くと期待していたが時間がかかりすぎだ。一日でも早く再稼働してほしい」と熱望した。

島根1号機も

中国電力は18日、島根原発1号機（松江市）の廃炉を決定した。苅田知秀社長が同日午後、島根県知事と松江市長に説明する。

ワードBOX

玄海原発

佐賀県玄海町にある九州電力の原発。加圧水型軽水炉が4基あり、合計出力347万8千キロ。1号機は1975年、2号機は81年、3号機は94年、4号機は97年に運転を始めた。3号機は2009年にウラン・プルトニウム混合酸化物（MOX）燃料を用いたプルサーマル運転を日本で初めて開始。2、3号機は東日本大震災前に定期検査で停止。1、4号機も11年12月に定検で停止した。